科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM1M1C01 声楽実技研究Ⅰ	桑原　理恵他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	前期	※				ＡＢＤ

授業のテーマ及び到達目標

歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を理解し、豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。
＊実技試験は３分以上５分以内の演奏、曲数、楽曲の種類は問わない。

授業の概要

歌曲を主な題材として歌唱の基本である身体の使い方、呼吸法を学びながら豊かな母音の響きのポジションを探る。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	レッスンの概要説明 歌う姿勢・マナーの指導	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲２（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
2	各自課題曲１（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する	10	各自課題曲３（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する
3	各自課題曲１（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する	11	各自課題曲３（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する
4	各自課題曲１（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲３（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する
5	各自課題曲１（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲３（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
6	各自課題曲２（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ１ （歌詞や内容の理解・作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
7	各自課題曲２（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ２ （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる
8	各自課題曲２（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修			

教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM1M1C02 声楽実技研究Ⅱ	桑原　理恵他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	後期	※				ＡＢＤ

授業のテーマ及び到達目標

歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を理解し、豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。
＊実技試験は３分以上５分以内の演奏、曲数、楽曲の種類は問わない。

授業の概要

声楽実技研究Ⅰにひきつづき、歌曲を主な題材として歌唱の基本である身体の使い方、呼吸法を学びながらディクションと歌唱法のつながりを学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲５（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
2	各自課題曲４（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する	10	各自課題曲６（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する
3	各自課題曲４（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する	11	各自課題曲６（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する
4	各自課題曲４（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲６（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する
5	各自課題曲４（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲６（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
6	各自課題曲５（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ１ （歌詞や内容の理解・作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
7	各自課題曲５（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ２ （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる
8	各自課題曲５（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修			

教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C09 器楽実技研究Ⅰ（ピアノ）	松﨑　伶子・川口　みさき　他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修				ＡＢＤ

授業のテーマ及び到達目標

楽曲の様式を理解しながら、確かな技術と表現力を養うことを目的とする。専門的な知識、態度を兼ね備えられる。

授業の概要

基礎的な技術の確立と向上をはかりながら、エチュード及びバロックの作品を修得する。
・エチュード（クラマー・ピュロー　クレメンティ、ツェルニー50番、モシュコフスキー等）
・J.Sバッハ（インヴェンション・シンフォニア・平均律等）

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の学習計画を立てる。ピアノの基礎であるスケールを全調マスターする。	レッスンまでに１曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
2	基礎技能の訓練①　スケールとアルペジオ全調をマスターする。	スケール・アルペジオの訓練	不得意な調の克服
3	基礎技能の訓練②　エチュード(クラマー・ピュロー、ツェルニー50番等)進度に合った楽曲を選ぶ	練習曲集の中から選択して弾いてみる	曲目を決定後、練習する
4	エチュードの作品を学ぶ①　奏法を中心に行う	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
5	エチュードの作品を学ぶ②　打鍵法と運指法を中心に学ぶ	楽譜の指使いを中心に学ぶ	正しい運指を身に着ける
6	エチュードの作品を学ぶ③　和声を中心に楽曲分析	自分で分析してレッスンに臨む	和声感を身に着ける
7	バロックの作品を学ぶ①　バロック音楽の作曲技法、構成を研究し技術の向上をはかる	バロック音楽について調べる	バロック音楽の時代背景を学ぶ
8	バロックの作品を学ぶ②　時代背景・様式を中心に学修する	バロック様式の特徴を調べる	バロック音楽の時代様式を学ぶ
9	バロックの作品を学ぶ③　奏法を中心に学修する	多声音楽について調べる	各声部の弾き分け
10	前期課題曲へのアプローチ法を探る	各自の課題曲を練習	読譜の徹底
11	課題曲を学ぶ①　時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代様式を調べる	指示された事柄について練習を進める
12	課題曲を学ぶ②　試験曲の形式・和声を中心に学修する	曲の形式を調べる	形式に基づいた練習
13	課題曲を学ぶ③　強弱法・奏法を中心に学修する	音の強弱に注目して練習する	強弱法に基づいた練習
14	課題曲の完成度を高める①　発表のための奏法の完成	奏法を学ぶ	指示された事柄について練習を進める
15	課題曲の完成度を高める②　発表のための表現法・強弱・音色の完成	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める

備考
※ピアノコース必修

教科書・テキスト等	各担当教員が、推薦・指定する楽譜,各個人に合わせた楽曲を選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験は複数の教員で採点する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C10 器楽実技研究Ⅱ（ピアノ）	松﨑　伶子・川口　みさき　他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修				ＡＢＤ

授業のテーマ及び到達目標

楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。

授業の概要

古典派の作曲家の作品を習得する。ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン等のソナタを学ぶことにより、ソナタ形式を理解する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	学習計画を立てる	レッスンまでに１曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
2	古典派の楽曲を学ぶ①　時代背景・様式を中心に学修する	古典派の音楽について調べる	古典派の時代背景を復習する
3	古典派の楽曲を学ぶ②　形式・和声を中心に学修する	ソナタ形式を調べる	ソナタ形式を踏まえた練習
4	古典派の楽曲を学ぶ③　奏法を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求
5	課題曲の読譜①　時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める
6	課題曲の読譜②　形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	ソナタ形式の分析
7	課題曲を分析する①　奏法を中心に学修する	古典派の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める
8	課題曲を分析する②　和声を中心に楽曲分析をする	和声を調べる	転調を意識して練習
9	課題曲を分析する③　奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ
10	課題曲を分析する④　表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底
11	課題曲を分析する⑤　音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求
12	課題曲の完成度を高める①　楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
13	課題曲の完成度を高める②　楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
14	課題曲の完成度を高める③　表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める

備考
※ピアノコース必修

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C09 器楽実技研究Ⅰ(管弦打)	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。

授業の概要

1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション（前期計画の確認他）	シラバスにて事前に確認	授業後にその学修内容の復習	9	エチュードおよびソロ曲③（エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法　他）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
2	導入（基礎練習に対しての準備と心構え）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	10	エチュードおよびソロ曲④（エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
3	呼吸法（正しい方法で基礎練習を行うための事前準備含）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	11	エチュードおよびソロ曲⑤（エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
4	基礎練習（ウォーミングアップの正しいやり方）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	12	エチュードおよびソロ曲⑥（エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認　他）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
5	エチュード課題の設定（各担当者が指定したエチュード）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①（粗通しをし、流れと音楽的表現の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
6	実技試験用ソロ曲の選定	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②（ピアニストとのバランス、縦の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前のレッスンでの課題を修整する	反省を基に伴奏合わせをする
7	エチュードおよびソロ曲①（エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③（実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法　他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	反省を基に伴奏合わせをする
8	エチュードおよびソロ曲②（エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法他）	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	備考 ※管弦打楽コース必修			

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
前期実技試験	100%	演奏内容（表現力・ピッチ・テンポ感等）

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C10 器楽実技研究Ⅱ(管弦打)	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。更に後期は前期で培ったものを活かし、レベルアップを目指すものとする。

授業の概要

1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。後期はエチュードの内容が少しずつ難しくなってくるので、更なるレベルアップを図る。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の反省と後期の展望について　他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦（エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法　他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧（エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
3	エチュードおよびソロ曲①（エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認）	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨（エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
4	エチュードおよびソロ曲②（エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認　他）	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩（エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認　他）	研究および練習	学修内容の確認と復習
5	エチュードおよびソロ曲③（エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認　他）	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①（粗通しをし、流れと音楽的表現の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
6	エチュードおよびソロ曲④（エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究　他）	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②（ピアニストとのバランス、縦の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする
7	エチュードおよびソロ曲⑤（エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認）	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③（実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法　他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省
8	エチュードおよびソロ曲⑥（エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法他）	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修			

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
後期実技試験	100%	演奏内容（表現力・ピッチ・テンポ感等）

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR1M1T17 創作応用演習Ⅰ(作曲)	出田　敬三　他	複数	２単位	音楽学科 １年次	前期	※				ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。
作曲と編曲を実践し、創作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。

授業の概要

1.和声学ａ(和声実習)／2.和声学ｂ(コラール分析・演奏)／3.コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析)／4.鑑賞（週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する）／5.モチーフ作曲（授業毎の2～4小節の課題を器楽曲にまとめる）／6.即興演奏法／7.作曲実習／8.楽曲アナリーゼ

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション 学修内容の説明。課題の目標と取り組み方について。創作、和声、コラール、コード進行法、鑑賞	自作品の創作、シラバスの熟読	課題の練習、演習、鑑賞	9	コラールのアナリーゼと初見演奏について②	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
2	和音とコードネーム①（音名、和音名、音階、コードネーム）	課題実習、鑑賞（レポート作成）	課題復習	10	モチーフ作曲（ピアノ曲２部形式）	課題実習・鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
3	和音とコードネーム② （コード、和音の機能）	課題実習、鑑賞（レポート作成）	課題復習	11	モチーフ作曲（ピアノ曲３部形式）	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
4	コード進行・和声実習①（３和音）	課題実習、鑑賞（レポート作成）	課題復習	12	自作曲のレッスンと記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
5	コード進行・和声実習②（３和音）	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	13	自作曲のレッスンと記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
6	コード進行・和声実習①（副3和音）	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	14	自作曲のレッスンと記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
7	コード進行・和声実習②（副3和音）	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅰのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習
8	コラールのアナリーゼと初見演奏について①	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	備考 ※作曲コース必修			

教科書・テキスト等	和声Ⅰ　理論と実習(音楽之友社),新総合音楽講座５　コード進行法(ヤマハ),コラール名曲集(全音楽譜出版社)
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
課題／レポート	10%	鑑賞レポート（週3曲以上）
平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR1M1N18 創作応用演習Ⅱ(作曲)	出田　敬三　他	複数	２単位	音楽学科 １年次	後期	※				ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。
作曲と編曲を実践し、創作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。

授業の概要

1.和声学ａ(和声実習)／2.和声学ｂ(コラール分析・演奏)／3.コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析)／4.鑑賞（週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する）／5.モチーフ作曲（授業毎の2～4小節の課題を器楽曲にまとめる）／6.即興演奏法／7.作曲実習／8.楽曲アナリーゼ

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	創作応用演習Ⅱの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅰ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞	9	コード進行（経過和音・□aug）・和声実習（ドミナントの総括）①	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
2	コード進行・和声実習（創作応用Ⅰの復習）	課題実習、鑑賞（レポート作成）	課題復習	10	コード進行（経過和音・□dim）・和声実習（ドミナントの総括）②	課題実習・鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
3	コード進行（副属7）・和声実習（属7→Ⅰ）①	課題実習、鑑賞（レポート作成）	課題復習	11	コード進行（経過和音・□m）・和声実習（ドミナントの総括）③	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
4	コード進行（副属7）・和声実習（属７→Ⅵ）②	課題実習、鑑賞（レポート作成）	課題復習	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
5	コード進行（副属7）・和声実習（属9長調・短調）①	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
6	コード進行（副属7）・和声実習（属9根音省略形）②	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習
7	ファンファーレについて（既成曲の分析） スコアとパート譜、移調楽器について	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅱのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習
8	ファンファーレ制作	課題実習、鑑賞（レポート作成）、楽曲アナリーゼ	課題復習	備考 ※作曲コース必修			

教科書・テキスト等	和声Ⅰ　理論と実習(音楽之友社),新総合音楽講座５　コード進行法(ヤマハ),コラール名曲集(全音楽譜出版社)
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1.2(ヤマハ)

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
課題／レポート	10%	鑑賞レポート（週3曲以上）
平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅰ（電子キーボード）	出田　敬三・中村　真貴	複数	２単位	音楽学科 １年次	前期	※				ＡＢＣＤ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画							
電子オルガンの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 前期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習	9	ラインハルト曲１（分析） スケール・カデンツ、試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	2	ラインハルト（３度の重音奏法）、スケール、楽曲演奏１①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト曲２（読譜）スケール・カデンツ、試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3	ラインハルト（６度の重音奏法）、スケール、楽曲演奏１②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト曲２（レジスト）スケール・カデンツ、試験曲④アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏（テクニック面の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	4	ラインハルト（レガート奏法）、スケール、楽曲演奏１③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト曲２（分析）スケール・カデンツ、試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏（テクニック面の克服）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
授業の概要								
専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。 ラインハルト、テクニック、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジストレーション、リズムと内容が多岐にわたる。	5	ラインハルト（親指のグリッサンドレ ラインハルト曲１（読譜）、スケール、楽曲演奏２③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト曲３（読譜）スケール・カデンツ、試験曲⑥音色・演奏表現の向上（音色に伴う演奏法の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	6	ラインハルト（各指のグリッサンドレガート奏法）、スケール、楽曲演奏２②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト曲３（レジスト）スケール・カデンツ、試験曲⑦音色・演奏表現の向上（双方から演奏をまとめる）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	7	ラインハルト曲１（読譜）、スケール、楽曲演奏２③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト曲３（分析）スケール・カデンツ、試験曲⑧試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験課題の練習	実技試験の準備
	8	ラインハルト曲１（レジスト）、スケール・カデンツ、試験曲①アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	備考 ※電子キーボードコース必修			

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本５０番(音楽之友社),新総合音楽講座５コード進行法(ヤマハ),その他、楽譜等をレッスン時に指定		実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
			課題　／　レポート	10%	課題を習得・練習
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.2(ヤマハミュージックメディア)		平常点（態度）演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
作応用演習Ⅱ（電子キーボード	出田　敬三・中村　真貴	複数	２単位	音楽学科 １年次	後期	※				ＡＢＣＤ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画							
電子オルガンの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション 後期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習	9	ラインハルト曲６（レジスト）、パイプオルガンの演奏（トゥ＆ヒール奏法）即興、モチーフ、試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	2	ラインハルト曲４（読譜）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏１①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト曲６（分析）、パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3	ラインハルト曲４（レジスト）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏１②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト曲７（レジスト）パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲④アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏（テクニック面の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	4	ラインハルト曲４（分析）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏１③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト曲７（分析）、パイプオルガンの演奏、試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏（テクニック面の克服）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
授業の概要								
専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。 ラインハルト、テクニック、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジストレーション、リズムと内容が多岐にわたる。	5	ラインハルト曲５（読譜）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏２①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト曲７（読譜）パイプオルガンの演奏、試験曲⑥音色・演奏表現の向上（音色に伴う演奏法の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	6	ラインハルト曲５（レジスト）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏２②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト試験曲のまとめ、パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲⑦音色・演奏表現の向上（双方から演奏をまとめる）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	7	ラインハルト曲５（分析）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏２③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト試験曲のまとめ、パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲⑧試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験課題の練習	実技試験の準備
	8	ラインハルト曲６（読譜）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、試験曲①アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	備考 ※電子キーボードコース必修			

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本５０番(音楽之友社),新総合音楽講座５コード進行法(ヤマハ),その他、楽譜等をレッスン時に指定		実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
			課題　／　レポート	10%	課題を習得・練習
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.2(ヤマハミュージックメディア)		平常点（態度）演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR1M1T17 創作応用演習Ⅰ（ミュージックパフォーマンス）	出田　敬三　他	複数	２単位	音楽学科 １年次	前期	※				ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

Ⅰ　個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。
Ⅱ　現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける。
Ⅲ　音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。

授業の概要

個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション　課題・試験曲選曲	入学前の課題	課題①練習・基礎練習
2	課題①への取り組み① 分析（背景）と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
3	課題①への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習
4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について　課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎練習
5	課題②への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習
6	課題②への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習
7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎練習
8	課題③への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習
9	課題③への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習
10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現（音響・サウンド）について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習
11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと作曲者等について	試験曲練習・基礎練習
12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ（構成）について	楽曲アナリーゼ（構成）について	試験曲練習・基礎練習
13	試験曲への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクス）について	試験曲練習・基礎練習
14	試験曲への取り組み④ 表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習・基礎練習
15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅰのまとめ Ⅱの準備

備考
※ミュージックパフォーマンスコース必修

教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	80%	専門実技の習熟度　自己表現力
平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CR1M1N18 創作応用演習II（ミュージックパフォーマンス）	出田　敬三　他	複数	２単位	音楽学科 １年次	後期	※				ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

Ⅰ　個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。
Ⅱ　現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける。
Ⅲ　音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。

授業の概要

個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション　課題・試験曲選曲	創作応用演習Ⅱの課題曲選曲	課題①練習・基礎練習
2	課題①への取り組み① 分析（背景）と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
3	課題①への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習
4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について　課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎練習
5	課題②への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習
6	課題②への取り組み② 分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習
7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎練習
8	課題③への取り組み① 分析（背景・リズム）と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習
9	課題③への取り組み②分析（アナリーゼ）と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習
10	課題③への取り組み③フレーズ、ダイナミクスと表現（音響・サウンド）について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習
11	後期試験への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲者等について	楽曲アナリーゼと作曲者等について	試験曲練習・基礎練習
12	後期試験への取り組み② 楽曲アナリーゼと構成について	楽曲アナリーゼ（構成）について	試験曲練習・基礎練習
13	後期試験への取り組み③ 表情（アーティキュレーション、ダイナミクス）について	アーティキュレーション、ダイナミクス）について	試験曲練習・基礎練習
14	後期試験への取り組み④ 表現表現（音響・サウンド）について	表現（音響・サウンド）について	試験曲練習・基礎練習
15	後期試験への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅱのまとめ　Ⅲの準備

備考
※ミュージックパフォーマンスコース必修

教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	80%	専門実技の習熟度　自己表現力
平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD1M1N25 サウンドデザインⅠ	出田　敬三・向野　友規・西田　和政	複数	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

■コピー&ペーストなどのLogicの基本操作を理解できるようになる
■オーディオインターフェイスを使用、レコーディングできるようになる
■MIDIでのレコーディングができるようになる
■編集ウィンドウなどを理解できるようになる

授業の概要

Logicの機能や音楽制作の基本を学ぶ。MIDIやオーディオ、またそれぞれの違いを学ぶ

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	■オリエンテーション ■目標、未来のビジョンの記入 ■プロジェクトの立ち上げ、保存 ■バウンス　■Macの設定について			9	■データの送受信（AirDrop、ギガファイル便）、バラアウト、MIDIデータの書き出し		
2	■MIDIとオーディオについて ■オーディオインターフェイス、MIDIキーボードでのレコーディング			10	■Logicの詳細なウィンドウなど ■コントロールバーとディスプレイのカスタマイズ ■トラックスタック		
3	■基本的な操作方法を学びながら、ソフトウェア音源とオーディオを組み合わせた短い曲を作る			11	■キーコマンドの変更方法 ■ソロツール、ミュートツールなど ■効率の上がるショートカット		
4	■基本的なドラムパターンの打ち込み			12	■Logic付属のインストゥルメンツ、プリセットについて ■テンプレートの作り方		
5	■基本的なピアノの打ち込み ■コード進行			13	■音響　理論と実習		
6	■基本的なベースの打ち込み			14	■マスタリングについての最低限の知識をつけ、簡易的なマスタリングできるようになる		
7	■既存曲の耳コピによる楽曲研究①			15	■データのバックアップ等、必須知識について		試験：自由曲
8	■既存曲の耳コピによる楽曲研究②			備考 ※サウンドデザインコース必修			

教科書・テキスト等	
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
課題／楽譜	10%	正確さ
平常点	10%	バックステージ、演奏活動への取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD1M1N26 サウンドデザインⅡ	出田　敬三・向野　友規・西田　和政	複数	２単位	音楽学科 １年次	後期	※				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

シンセサイザーで基本的な音色を作ることができる
サンプリングや逆再生など、オーディオ素材をより深く扱えるようになる
積極的な音作りができるエフェクトを扱えるようになる

授業の概要

シンセサイザーやエフェクトの基礎知識を学ぶ

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	■オリエンテーション ■イコライザーについて①			9	■音色変化が効果的なエフェクトを使用しトラック制作①		
2	■イコライザーについて②			10	■音色変化が効果的なエフェクトを使用しトラック制作①		
3	■リバーブ、ディレイについて			11	■エフェクトのオートメーションについて		
4	■コンプレッサーについて			12	■サイドチェーン（サイドチェーンコンプ、ボコーダー等）を使用しトラック制作		
5	■シンセサイザーの基本について① ■基本の波形の種類、音色の違い、ADSRについて			13	■音響　理論と実習		
6	■シンセサイザーの基本について② ■LFO等			14	■既存曲の耳コピによる楽曲研究①		
7	■サンプリング（Sampler&Quick Sampler)や逆再生等、オーディオに関するテクニックを用いてトラック制作			15	■既存曲の耳コピによる楽曲研究②		試験：課題曲に対してどれだけ近づけるか&自由曲
8	■FX系のサンプルを使用し、緩急のあるトラック制作			備考 ※サウンドデザインコース必修			

教科書・テキスト等	
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
課題／楽譜	10%	正確さ
平常点	10%	バックステージ、演奏活動への取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME1M1N33 音楽教育演習Ⅰ	岩山　惠美子	単独	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修				ＡＢＣＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育現場における教育活動実践のための基礎的能力を養う。

歌唱指導の実演・模擬指導や簡易伴奏づくりを通して、歌唱指導についての基礎的な知識や技能を習得するとともに、音楽の諸要素についての理解を深める。

授業の概要

発声のメカニズムや発達、さらに歌唱指導の意義を理解し、変声期の生徒に合った指導を構想する。

和声について理解し、歌唱指導に必要な伴奏を工夫し、演奏する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション ・演習内容と学修の進め方 ・事前課題の発表	事前課題をまとめ、発表準備と練習をする	シラバス、学生便覧を熟読する
2	歌唱指導の意義 ・学習指導要領の内容と学年系統	歌唱の指導事項を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる
3	歌唱指導の意義 ・求める声 ・模範演奏の分析	お勧めの歌声を探し、そのよさをまとめておく	中学生の演奏を聴き、声についての気づきをまとめる
4	発声のメカニズムと変声期の指導	自分の声の成長・変化をまとめておく	変声期の指導の留意点をまとめる
5	発声指導のポイントと声のトラブル対処法	発声上のトラブルについて調べておく	発声トラブルの対処法をまとめる
6	目標をもった発声指導	発声練習の経験をまとめておく	発声指導のポイントをまとめる
7	課題（教科書教材）の選択と指導構想	教科書の歌唱教材を歌っておく	選んだ教材曲を歌詞や階名で歌えるように練習しておく
8	学習活動と支援の工夫	楽曲との出合わせ方を考えておく	学習活動の流れをまとめる
9	模擬指導と意見交換	発声練習のさせ方や伴奏を練習しておく	意見交換の内容をまとめる
10	模擬授業のリフレクション	模擬授業記録をまとめておく	改善点をまとめる
11	歌唱指導における伴奏の工夫	課題曲を歌い、伴奏を練習しておく	カデンツを全調で弾けるように練習する
12	根音奏・和音伴奏の工夫 和声とコード	いろいろな和音の構成について調べておく□	課題曲の根音奏、和音伴奏をつくる
13	伴奏づくり ・選択した歌唱教材にあった簡易伴奏	自作の根音奏、和音伴奏を弾けるように練習しておく	指導場面に応じた伴奏をつくる
14	ノーテーション ・自作の伴奏をパソコンを使って記譜	自作の伴奏を確かめておく	記譜を完成させる
15	弾き歌いと歌唱指導 ・自作の伴奏を弾きながら、範唱し、歌唱指導をする	自作の伴奏を練習しておく	歌唱指導について自分の考えをまとめる

教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽（平成29年）（教育芸術社），中学生の音楽１，中学生の音楽２・３上，中学生の音楽２・３下（教育芸術社）
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
レポート	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
作品・演奏	30%	内容の深さ、演奏の正確さ
毎時間の振り返り	20%	内容についての理解、自分なりの考え

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME1M1N34 音楽教育演習Ⅱ	岩山　惠美子	単独	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修				ＡＢＣＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育現場での教育活動実践のための基礎的能力を養う。

器楽指導の意義を読み解くことを通して、求められる授業のあり方を理解することができる。

器楽教材曲をアレンジすることを通して、読譜力や楽器演奏の基礎的な技能を高めるとともに教材開発について理解を深める。

授業の概要

教材曲を生徒の能力に応じて編曲し、アンサンブルを体験する。

個に応じた指導について、テーマに沿った討議を通して、自分の考えをまとめる。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	器楽指導の意義 ・学習指導要領改訂の趣旨 ・指導内容と学年系統	器楽の指導事項を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる
2	アルトリコーダーの基礎的な奏法 ・呼吸、タンギング、指使い	ソプラノリコーダーの運指を確認しておく	アルトリコーダーの運指を練習する
3	リコーダー・アンサンブル ・音色、フレージング、バランス	アルトリコーダーの運指を確認しておく	全パートをリコーダーで演奏できるように練習する
4	アンサンブルアレンジ ・コードネーム	コードネームについて調べておく	選択した任意の１曲に合ったコードネームをつける
5	アンサンブルアレンジ ・和音奏の聴き合いと意見交換	選択した曲の旋律を練習しておく	意見を基に和音奏を見直す
6	器楽教材の工夫 ・不得意感を抱いている生徒への配慮と支援	音楽嫌いの原因について考え、まとめておく	不得意な生徒のためのパートをつくる
7	器楽教材の工夫 ・技能が高い生徒への配慮と支援	つくったパートを演奏できるようにしておく	技能の高い生徒のためのパートをつくる
8	アレンジ作品の発表(演奏）と 意見交換Ａ	工夫点をまとめておく	気づきをもとに修正する
9	アレンジ作品の発表(演奏）と 意見交換Ｂ	工夫点をまとめておく	気づきをもとに修正する
10	個に応じた指導ののあり方(討議) テーマ 「なぜ、個に応じた指導が必要か」	個に応じた指導の必要性を自分なりにまとめておく	意見をもとに自分の考えを見直し、まとめる
11	リコーダー曲集をつくろう ・生徒の実態把握 ・内容構成と選曲	授業前に生徒の何が分かっているとよいかまとめておく	実態把握の必要性と方法についてまとめる
12	リコーダー曲集を作ろう ・意欲を引き出す工夫	意欲をもって学習に取り組んだ経験をまとめておく	意欲を引き出す教師の関わりをまとめる
13	リコーダー曲集を作ろう ・指導法の工夫 ・自学ができる工夫	自主的に取り組めるような方法を考えておく	自己の学習成果を確認できるような方法を考えまとめる
14	リコーダー曲集についてのプレゼンテーションと意見交換Ａ	工夫点をまとめておく	意見を参考にリコーダー曲集の手引きを作成する
15	リコーダー曲集についてのプレゼンテーションと意見交換Ｂ	工夫点をまとめておく	意見を参考にリコーダー曲集の手引きを作成する

教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年）（教育芸術社），中学生の器楽(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
作品・演奏	40%	内容の深さ、演奏の正確さ
毎時間の振り返り	20%	内容の理解度、自分なりの考え

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT1M1T41 音楽療法演習Ⅰ	村橋　和子・青　拓美	オムニバス	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修			必修	ＡＢＣＤＦ

授業のテーマ及び到達目標

発達の諸理論についてまとめる。課題曲の練習。各論では学生が音楽を媒体として高齢者を支える意味を多角的・理論的に説明できることを目的とする。また技法においては、高齢者の心身の健康及び疾病や障がい、加齢に伴う認知機能の変化に対して有効的に働きかけるための臨床的音楽技法を身につけることを目的とする。

授業の概要

高齢者領域に関する各論及び技法を扱う。各論の学習では、学生が作成するレジュメを基に、高齢者の心身の健康及び疾病や障がい、加齢に伴う認知機能の変化を把握する。技法では臨床場面での音楽を模擬体験し、その奏法やレパートリーを学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する　課題発表	シラバスの熟読	課題曲の練習
2	・ヒトの発達について ・臨床場面での伴奏法(コードについて)	プリントの熟読、用語の理解	発達についてまとめる 課題曲の練習
3	・様々な発達論 ・臨床場面での伴奏法(課題曲のコード奏)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	発達諸理論についてまとめ 課題曲の練習
4	・発達と音楽療法との関連を探る ・臨床場面での伴奏法(高齢者で使用する楽曲の理解)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	発達と音楽療法についてまとめ 課題曲の練習
5	・加齢に伴う変化を理解する ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	高齢期の障がいについてまとめ 課題曲の練習
6	・高齢者の疾病・障がいと音楽療法との関連を探る ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	高齢期の疾病についてまとめ 課題曲の練習
7	・脳の仕組み、その機能について理解する ・臨床場面での伴奏法(歌謡曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	脳の機能についてまとめる 課題曲の練習
8	・脳機能障害について理解する ・高齢者領域での楽曲(大正時代までの背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	脳機能障害についてまとめる 課題曲の練習
9	・認知症について理解する ・高齢者領域での楽曲(昭和戦前の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	認知症についてまとめる 課題曲の練習
10	・認知症と音楽療法との関連を探る ・高齢者領域の楽曲(戦後の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	認知症と音楽についてまとめる 課題曲の練習
11	・ADLとQOLについて理解する ・高齢者領域の楽曲(昭和３０年以降の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	ADLとQOLについてまとめ 課題曲の練習
12	・回想法を理解し、音楽療法との関連を考える ・高齢者領域の楽曲(平成の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	回想法についてまとめる 課題曲の練習
13	・高齢者領域の事例研究 ・高齢者領域の楽曲(試験曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	事例についてまとめ 課題曲の練習
14	音楽療法における声の使い方（時期未定）　＊青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、用語を調べる	レッスンで学んだことをまとめる
15	・まとめ（弾き歌い、口頭試問） ・夏休みの課題提示	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

備考
※音楽療法コース必修 /青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明

教科書・テキスト等	認知症のパーソンドケア(クリエイツかもがわ),こころをつなぐミュージックセラピー(ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き　音楽療法家のための(牧野出版),音楽療法の実際　音の使い方をめぐって(牧野出版)

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点（態度・行動観察）	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT1M1T42 音楽療法演習Ⅱ	村橋 和子・土野　研治	オムニバス	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修			必修	ＡＢＣＤＦ

授業のテーマ及び到達目標

Ⅰに引き続き、音楽療法士が音楽を媒体として高齢者を支える意味を多角的・理論的に検討することを目的とする。また技法においては集団に対して有効に働きかけるための臨床的音楽技法(コード奏による弾き歌い、初見力、を身につける。

授業の概要

各論では高齢者にとっての「人生の意味」「老いること」「死」などのテーマについて向き合い、探究し、ひとつの人格の中にそれらが統合される過程について考察する。また高齢者のADLやQOLの維持・向上を目的とした音楽療法の手段、査定、評価についても学ぶ。技法では集団を中心としたワークを行う。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する。　課題発表	シラバスの熟読。	課題曲の練習
2	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(明治時代の馴染みの曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
3	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(大正時代の馴染みの曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
4	・エリクソン「ライフサイクル」 ・弾き歌い(戦前の曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
5	・アイデンティティーの確立について ・弾き歌い(軍歌)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
6	・マズローの欲求段階説 ・弾き歌い(昭和20年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
7	・自己実現・至高体験と音楽療法 ・弾き歌い(昭和30年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
8	・パーソンセンタード・ケア ・弾き歌い(昭和40年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
9	・来談者中心療法 ・弾き歌い(昭和50年代以降の曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
10	・即興体験 ・弾き歌い(平成時代の名曲①)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
11	・即興体験 ・弾き歌い(平成時代の名曲②)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
12	・土野研治客員教授による特別講義 （時期未定）	レジュメの熟読	講義のまとめレポート作成
13	・終末期医療と音楽療法 ・弾き歌い(試験曲)	プリントの熟読、用語の理解、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
14	・グリーフ・ケアについて ・弾き歌い(試験曲)	レジュメを熟読し、用語を調べる。課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
15	・まとめ（弾き歌い、口頭試問）	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

備考
※音楽療法コース必修 土野研治客員教授の特別講義についてはオリエンテーションにて詳細を説明

教科書・テキスト等	認知症のパーソンドケア（クリエイツかもがわ）、障害児の音楽療法　声・身体・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（春秋社）
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き　音楽療法家のための（牧野出版） 音楽療法の実際　音の使い方をめぐって(牧野出版)

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点（態度・行動観察）	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP1M4C01 ピアノⅠ	眞鍋　協子　他	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	前期	※	必修		選択必修	ＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

バロック、古典派に重点を置き、曲にふさわしい奏法・様式感で演奏する力を身につける。各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。

授業の概要

基礎的な技術の習得を目指すとともに、バロック、古典派など、時代に即した演奏技術を身につける。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の学修計画を立てる ピアノの基礎であるスケール・練習曲等を選曲する	シラバスを読み、授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める
2	ピアノの基礎技術① スケールの運指法を学ぶ	運指に注意し練習する	長調を復習しておく
3	ピアノの基礎技術② 調と指使いのパターンを習得する	課題の調のスケールを練習する	短調を復習しておく
4	ピアノの基礎技術③ スケールおよび練習曲による指の独立	調子記号を覚える	長調・短調を続けて弾けるよう復習しておく
5	ピアノの基礎技術④ カデンツを習得する	カデンツの指使いを覚える	カデンツ付きのスケールの復習
6	前期試験曲を決定し、現在の進度にあった楽曲を選択する	課題となる曲集を準備する	決定した曲の時代背景を調べる
7	課題曲の分析① バロック・古典派など時代背景を中心に	決定した曲を練習する	曲の背景にある様式等をまとめておく
8	課題曲の分析② バロック・古典派など形式を中心に	試験曲の形式を調べておく	曲の形式についてまとめておく
9	課題曲の練習方法／バロック・古典派など奏法を中心に	テンポを守り練習する	研究した練習方法をまとめる
10	課題曲の構成① 奏法を中心に	音の粒をそろえて練習する	音の質をそろえて練習する
11	課題曲の構成② 強弱の付け方に注意して	楽譜に書かれた強弱をていねいに見直す	表現にメリハリを持たせるよう練習する
12	課題曲の構成③ 音色を中心に	楽曲にふさわしい音色で表現する	身体の使い方を復習する
13	構成・表現の修得①全体の構成を考え強弱を決定する	曲を暗譜で演奏できるようにする	暗譜が不確実な箇所を克服する
14	構成・表現の修得②音色を中心に	暗譜で安定した演奏ができるようにする	技術、表現両方を確実に見直す。
15	構成・表現の完成。後期の課題決め	授業を振り返り総まとめをする	授業で学んだことをまとめる

備考
※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP1M4C02 ピアノⅡ	眞鍋　協子　他	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	後期	※	必修		選択必修	ＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。

授業の概要

基礎的な技術の修得を目指すとともに、古典派・ロマン派など、時代に即した演奏技術を身につける。一人一人の技能・到達度に応じた指導を行う。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	スケール・練習曲等を通して、前期に学んだことを振り返る	指示された課題を仕上げておく	指示された事柄について練習を進める
2	スケール・練習曲等を通して、レガート奏法・スタッカート奏法について学ぶ	レガート、スタッカートの奏法でスケールを準備する	タッチの多様性について復習しておく
3	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、拍子感について学ぶ	拍子感を大切にして練習する	拍子感について復習する
4	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、演奏における姿勢、手の形について	姿勢に留意し練習する	指示された事柄について練習を進める
5	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、身体・腕の使い方について考察する	手首・腕の脱力を意識して練習する	指示された部分を修正する
6	後期試験曲の決定、タッチについて	試験候補曲の練習をする	指の独立の重要性についてまとめておく
7	試験曲の分析・練習方法①（時代背景・様式を中心に）	決定した曲について調べる	曲の背景をまとめる
8	試験曲の分析・練習方法②（形式・和声を中心に）	ハーモニーに留意し練習する	曲の形式について考察する
9	試験曲の分析・練習方法③（形式・和声の確立）	和声と表現を結びつけ練習する	ハーモニーと構成を考える
10	試験曲の構成・表現の修得①（奏法を中心に）	曲に合った音色で練習する	思い通りの音色で表現できるよう工夫する
11	試験曲の構成・表現の修得②（奏法の確立）	指・手首・腕等の使い方を考える	表現と奏法の関連性を考察する
12	試験曲の構成・表現の修得③（強弱のつけ方を中心に）	楽譜に指示された強弱記号を見直す	強弱を的確に解釈する
13	試験曲の構成・表現の修得④（全体の構成を考え強弱を決定する）	流れの中で自然に表現できるよう練習する	技術と表現の両立を図る
14	試験曲の構成・表現法等の完成①（音色を中心に）	曲に合った音色で練習する	声部間のバランスを見直す
15	試験曲の構成・表現法等の完成②（音色の確立）	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	学びの総まとめをする

備考
※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV1M4C09 声楽Ⅰ	桑原　理恵　他	クラス分け	１単位	音楽学科 １年次	前期	必修	必修		選択必修	ＢＥ

授業のテーマ及び到達目標

呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての理解を深める。また、イタリア語の発音の仕方に慣れる。身体を解放して伸びやかな演奏ができる。

授業の概要

「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。
＊試験曲ではイタリア歌曲集Ⅰ、Ⅱ巻掲載曲より選曲する

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	イタリア歌曲を鑑賞する	9	各自課題曲２ （歌詞の意味と表現）	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
2	各自課題曲１ （身体と声の関係）	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲３ （母音の響きと呼吸法）	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
3	各自課題曲１ （声の響き）	身体を解放することを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲３ （イタリア語の発音と発声）	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる
4	各自課題曲１ （息の流れと身体の支え）	声の響きを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲３ （言葉と旋律の関係）	息の流れが止まることなく歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
5	各自課題曲１ （発声と発音）	息の流れを意識してイタリア語で歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ１ （呼吸・発声）	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
6	各自課題曲２ （母音の響き）	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ２ （発音・母音の響き）	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
7	各自課題曲２ （イタリア語の発音とリズム）	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ３ （表現法）	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる
8	各自課題曲２ （イタリア語の響き）	響きのある母音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修（声楽コースを除く）※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目			

教科書・テキスト等	イタリア歌曲集Ⅰ(全音楽譜出版社),イタリア古典声楽曲集Ⅰ(教育芸術社),＊高声・中声・低声、出版社は担当教員と相談の上購入すること
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV1M4C10 声楽Ⅱ	桑原　理恵　他	クラス分け	１単位	音楽学科 １年次	後期	必修	必修			ＢＥ

授業のテーマ及び到達目標

呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての知識を演奏の中で活かすことができる。イタリア語の発音の仕方に慣れ、母音の響きを大切に歌うことができる。

授業の概要

声楽Ⅰにひきつづき「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。
＊試験曲ではイタリア歌曲集Ⅰ、Ⅱ巻掲載曲より選曲する

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲５ （言葉と表現）	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
2	各自課題曲４ （発音と呼吸法）	課題曲をイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲６ （歌詞と発語）	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる
3	各自課題曲４ （母音の響き）	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲６ （テンポ・強弱などの表現）	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる
4	各自課題曲４ （言葉と響き）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲６ （伴奏と旋律）	伴奏と歌との関わりを理解して歌う	レッスン内容をまとめる
5	各自課題曲４ （旋律の表現）	フレーズのまとまりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ１ （呼吸・発声）	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
6	各自課題曲５ （イタリア語の発音と母音の響き）	母音の響きに気をつけてイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ２ （発音・母音の響き）	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
7	各自課題曲５ （イタリア語と旋律）	イタリア語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ３ （表現法）	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる
8	各自課題曲５ （旋律と呼吸）	フレーズと呼吸の関わりを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修（声楽コースを除く）※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目			

教科書・テキスト等	イタリア歌曲集Ⅰ(全音楽譜出版社),イタリア古典声楽曲集Ⅰ(教育芸術社),＊高声・中声・低声、出版社は担当教員と相談の上購入すること
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科　目　名	担　当　者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C01 合唱Ⅰ	菊村　隆史	単独	２単位	音楽学科・未来創造学科 １年次	前期	必修	必修			ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる

授業の概要

コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる
2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ド唱法とソルミゼーションその１	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ド唱法とソルミゼーションその２	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガヌム等を用いて完全４度または完全５度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Ａの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Ａの実習、発語（ディクション）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Ｂの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Ｂの実習、発語（ディクション）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する，詳細は授業時に指示する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
課題　／　レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み

科　目　名	担　当　者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C02 合唱Ⅱ	菊村　隆史・桑原　理恵・村橋　和子	複数	２単位	音楽学科・未来創造学科 １年次	後期	必修	必修			ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。

授業の概要

コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる
2	楽曲演奏と実習① 組曲第１曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
3	楽曲演奏と実習② 組曲第２曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
4	楽曲演奏と実習③ 組曲第３曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
5	楽曲演奏と実習④ 組曲第４曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第５曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第６曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第７曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第８曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第９曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その１	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その２	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
13	リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習
14	演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習
15	総括と反省	既習事項のまとめと練習	合唱音楽についてまとめる

教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する，詳細は授業時に指示する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
課題　／　レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4C09 合奏Ⅰ	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修	必修		選択必修	ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる。

授業の概要

アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える
2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
3	合奏における注意点　他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感をもって臨む）	プログラム全曲について、注意すべき点をチェックする	注意や指摘されたところの最終調整と練習
14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に活かす）	本番に備えての準備他	本番を終えての反省点をまとめる
15	総括と反省会	反省点をまとめて準備しておく	前期で学んだことの確認と後期への展望を考える

備考
※音楽療法士１種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる

教科書・テキスト等	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4C10 合奏Ⅱ	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修	必修		選択必修	ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる。

授業の概要

アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える
2	基本的奏法の修得とその応用①（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
3	基本的奏法の修得とその応用②（教材曲の演奏と分析）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
4	基本的奏法の修得とその応用③（リズム・音程のトレーニング）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
5	基本的奏法の修得とその応用④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
6	基本的奏法の修得とその応用⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
7	基本的奏法の修得とその応用⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
8	基本的奏法の修得とその応用⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各楽器・パートそれぞれの役割について）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様々な楽器の特色と奏法）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音楽的表現における音色の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更なる表現方法の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
13	まとめ①（教材楽曲を通しての確認と応用①）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
14	まとめ②（教材楽曲を通しての確認と応用②）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕）	発表会への準備等	授業の総括と反省

備考
※音楽療法士１種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる

教科書・テキスト等	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC1M3T15 演奏実技Ⅰ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	１単位	音楽学科 １年次	前期	※				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。

授業の概要

原則として、以前経験したことのある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（約30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス（年間計画等）	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備	9	基礎練習⑤（スケール〔♭系短調〕）	事前練習	学修内容の復習
2	楽器の歴史	事前に調べておく	学修内容の復習	10	基礎練習⑥（スケール〔♯系短調〕）	事前練習	学修内容の復習
3	楽器の特徴と構造	事前に調べておく	学修内容の復習	11	簡単なソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
4	呼吸法	事前に実践しておく	学修内容の復習	12	ソロ曲（粗通し）	事前練習	学修内容の復習
5	基礎練習①（ロングトーン）	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習
6	基礎練習②（フィンガリング・リップスラー）	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習
7	基礎練習③（スケール〔♭系長調〕）	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	前期の反省　他
8	基礎練習④（スケール〔♯系長調〕）	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可			

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC2M3T17 演奏実技Ⅱ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	１単位	音楽学科 １年次	後期	※				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。

授業の概要

原則として、以前経験したことのある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（役30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の反省および確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
2	エチュードの選定（内容の説明　他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲A-1	事前練習	学修内容の復習
3	エチュードA-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲A-2	事前練習	学修内容の復習
4	エチュードA-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲A-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習
5	エチュードA-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲A-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習
6	エチュードA-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲A-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習
7	エチュードA-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省　他
8	エチュードA-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可			

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
リトミックⅠ	隈部　文	単独	１単位	音楽学科・未来創造学科 １年次	前期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

リトミックを体験することにより、「集中力」「直感力」「記憶力」「創造力」「想像力」など高まり、音や音楽を深く感じられるようになる。リズムの持つエネルギーの違いが表現できる。

授業の概要

感覚を通した反応活動を伴いながら音楽の持つ様々な要素を身体全体で感じていく。常に動きながら音楽を体験し、心と身体の調和を促したり、音楽的センスを培っていく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション 基本的な動きと即時反応	シラバスに目を通しておく	エミール＝ジャック　ダルクローズについて調べる
2	ビート（拍）	配布資料を読み、様々なジャンルの音楽を聴いておく	様々な音楽を聴きながらビートを叩く
3	ダイナミクスとテンポ	配布資料を読んでおく	いろいろな速さの音楽を聴きながらビートを叩く
4	拍子	配布資料を読んでおく	様々な曲を歌いながら拍子をクラップやステップする。
5	アナクルーシス	拍子の復習をしておく	身近な曲からアナクルーシスを探す
6	基礎リズム	基本的なリズムをクラップしておく	授業を振り返り、基礎リズムの体験方法を考えてみる
7	リズムパターン（リズム型）	物の名前を言いながらクラップしておく	授業で学んだリズムパターンをステップしておく
8	リズムフレーズ（声とクラップ）	短文を言いながら区ラップしておく	リズムフレーズをリズム唱で唱えたりクラップする
9	リズムフレーズ（クラップとステップ）	課題のリズムフレーズをクラップしておく	自分でリズムフレーズを作りクラップやステップをする
10	ポリリズム	課題のリズムをクラップ、ステップしておく	自分で考えたポリリズムをクラップやステップする
11	曲の形式	提示された曲を聴いておく	いろいろな曲の形式を調べる
12	ニュアンス	配布資料を読んでおく	自分の好きな曲をいろいろなニュアンスで歌ってみる
13	補足リズム	基礎リズムやリズムパターンをクラップしておく	いろいろな曲を歌いながら補足リズムをクラップする
14	連鎖リズムとカノン	課題のリズムをクラップ、ステップしておく	授業で取り上げた課題を確実にできるようにしておく
15	まとめ	実技試験の準備	実技試験の振り返り

備考
※卒業要件として、音楽学科は選択、こども学科は必修

教科書・テキスト等	基礎からわかるリトミック！リトミック！　　石丸　由理 著(ひかりのくに出版)
参考書・参考資料等	ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業　ヴァージニア・ホッジ・ミード著 神原雅之他　訳(ふくろう出版)

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度
定期試験（実技試験）	60%	リズムの正確さ

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
リトミックⅡ	隈部　文	単独	１単位	音楽学科・未来創造学科 １年次	後期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

保育や幼児教育、学校教育などさまざまな現場で生かせるリトミック指導ができるようになる。動きのためのピアノが弾けるようになる。

授業の概要

リトミックⅠで経験したことを基盤として発展させ、保育や幼児教育、また学校教育の現場で生かせるリトミック指導法や、音楽と動きを関連付けた音楽教育としてのリトミックを習得する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	動きのための音楽① （ステップ）	夏休みの課題曲を弾いておく	授業で弾いた曲を練習しておく
2	動きのための音楽② （動物・乗り物　他）	課題曲を弾いておく	授業で弾いた曲を練習しておく
3	いろいろな表現① （ボディー・パーカッション）	課題のリズムを叩いてくる	ボディー・パーカッションの自分の曲を作る
4	いろいろな表現② （身体表現を伴っての言葉のアンサンブル）	課題のリズムを叩いてくる	言葉のアンサンブルの自分の曲を作る
5	いろいろな表現③ （絵本に動きをつける）	グループで絵本を考え、内容を把握しておく	好きな絵本に音楽を付けてみる
6	速さの違いを感じての動き	課題曲を聴いておく	授業を振り返り、自分なりのアプローチを考える
7	楽器の音色の違いを楽しみながらの動き	課題曲を聴いておく	いろいろな楽器の音楽を聴き、動きをイメージする
8	３拍子を感じて「メヌエット」を味わう	課題曲を聴いておく	自分なりの３拍子のアプローチを考えてみる
9	指導案の組み立て	配布資料を読んでおく	指導案を考える
10	ロールプレイ①	ロールプレイの準備をする	ロールプレイの良い点や改善点をまとめる
11	ロールプレイ②	ロールプレイの準備をする	ロールプレイの良い点や改善点をまとめる
12	音楽の視覚化①～プラスティックアニメ～　（曲の分析）	課題曲を聴いておく	インターネットでプラスティックアニメの動画を観る
13	音楽の視覚化②～プラスティックアニメ～　（曲を動く）	課題曲の音楽の要素の合う身体の動きを考えておく	グループで作った動きを復習しておく
14	音楽の視覚化③～プラスティックアニメ～　（仮発表と検討）	自分の動きを確認する	授業で撮影した動画を観て客観的に振り返り、再考する
15	まとめ	実技試験の準備	これまでの授業内容と、実技試験の振り返り

備考
※卒業要件として、音楽学科は選択、こども学科は必修

教科書・テキスト等	基礎からわかるリトミック！リトミック！　　石丸　由理 著(ひかりのくに出版)
参考書・参考資料等	リトミックでつくる楽しい音楽授業　井上　恵理・酒井　惠美子 共著　（明治図書），ダルクローズ・アプローチによる子どものため

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度
定期試験(実技試験)	60%	音楽の捉え方、動きの工夫、全体の構成

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T56 音楽理論ＩA	柏尾　剛徳	単独	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修	必修		選択必修	ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

音楽を専門的に勉強するにあたり、最も重要な「楽典（音楽理論）」を基礎から学ぶことができる。小中高と学んできた「音楽」の理解度の確認、そしてさらに詳しく理論的に学び、今後の音楽活動に実践していくことができる。

授業の概要

音楽の基礎的学問である「楽典」を、現実の音楽と一体化したいという思いから作られた教材「楽典・音楽家を志す人のための」を主に使用し、演奏する際に必要な知識も含め、音楽表現に役立てていくことを目標とする。前期は音楽の発展過程と、演奏するにあたり必要な知識を得ることを主な内容とする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション（これから学ぶにあたっての心構え　他）	シラバスで内容を確認	確認と復習
2	音楽の三要素・譜表（rhythm.melody.harmony・五線と加線他）	事前に学修内容の部分を使用教科書で予習	授業後にその復習
3	音名・音高標示・変化記号（ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等）	音名・音高標示・変化記号について調べておく	授業後にその復習
4	音符と休符（単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等）	音符と休符について調べておく	授業後にその復習
5	連符（連符とは・連符の変形・連符から単位音符を知る方法）	連符について調べておく	授業後にその復習
6	小節と拍子とrhythm（強起・弱起・拍子の種類・syncopation他）	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後にその復習
7	音の装飾と奏法（装飾音・装飾記号とその奏法）	音の装飾と奏法について調べておく	授業後にその復習
8	音型と反復とその略記法（メロディー的音型・ハーモニー的音程の反復と略記法等）	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後にその復習
9	演奏記号と用語①（速度記号・速度用語）	速度記号・速度用語について調べておく	授業後にその復習
10	演奏記号と用語②（Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後にその復習
11	演奏記号と用語③（Agogikを指示する用語およびarticulationを示す用語その他）	各用語について調べておく	授業後にその復習
12	音楽の形式（器楽曲の形式等）	音楽の形式について調べておく	授業後にその復習
13	音程①（旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称）	音程について調べておく	授業後にその復習
14	音程②（練習問題）	教科書の練習問題を解く	授業で配られた練習問題を復習
15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習

教科書・テキスト等	楽典（音楽家を志す人のための）（音楽之友社）パーフェクト楽典 ハンドブック(ドレミ楽譜)
参考書・参考資料等	パーフェクト楽典・問題集(ドレミ楽譜)

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	主に授業態度、積極的な姿勢等
習熟度テスト	10%	理解度
期末試験	60%	筆記試験の点数

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T56 音楽理論ＩB	西林　博子	単独	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修	必修		選択必修	ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること。

授業の概要

Bクラスは楽典を基礎から学びたい人や、ある程度知識があるが、より基礎から学びなおしたい人のためのクラスである。習熟度テストを導入し、理解力を確かめながら、楽典をより理論的に学んでいく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション（これから学ぶに当たっての心構え　他）	シラバスで確認	確認と復習
2	音楽の三要素・譜表（rhythm.melody.harmony・五線と加線他）	事前に学修内容の部分を使用教科書で予習	授業後に課題プリントを行い提出する
3	音名・音高標示・変化記号（ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等）	音名・音高標示・変化記号について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
4	音符と休符（単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等）	音符と休符について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
5	音程①（幹音どおしの音程）	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
6	音程②（旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称）	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
7	音階①音階の成り立ち	音階について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
8	音階②音階と調、調号	調号について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する
9	音階③五度圏	五度圏について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する
10	音階④近親調	近親調について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する
11	演奏記号と用語①（速度記号・速度用語、Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
12	演奏記号と用語②（Dynamik、Agogik、articulationを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
13	まとめ①（音名、音程、音階）	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
14	まとめ②（音名、音程、音階）	教科書の練習問題を解く	授業後に課題プリントを行い提出する
15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	音楽理論Iのまとめ

教科書・テキスト等	楽典（理論と実習）（音楽之友社）、プリント
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	10%	主に授業態度。積極的な姿勢等
課題提出	30%	事前学習後の定着度
期末テスト	60%	筆記試験での点数

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T57 音楽理論ⅡA	柏尾　剛徳	単独	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修	必修		選択必修	ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

音楽を専門的に勉強するにあたり、最も重要な「楽典（音楽理論）」を基礎から学ぶことができる。小中高と学んできた「音楽」の理解度の確認、そしてさらに詳しく理論的に学び、今後の音楽活動に実践していくことができる。

授業の概要

音楽の基礎的学問である「楽典」を、現実の音楽と一体化したいという思いから作られた教材「楽典・音楽家を志す人のための」を主に使用し、演奏する際に必要な知識も含め、音楽表現に役立てていくことを目標とする。後期は和声法や対位法などを理解する上で必要な、基礎的な音楽理論を中心とする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	音階と調①（長音階）	長音階について調べておく	授業後にその復習
2	音階と調②（短音階）	短音階について調べておく	授業後にその復習
3	音階と調③（①②の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習
4	音階と調④（全音階と半音階および民族的音階）	全音階と半音階および民族的音階について調べておく	授業後にその復習
5	音階と調⑤（近親調と遠隔調）	近親調と遠隔調について調べておく	授業後にその復習
6	音階と調⑥（⑤の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習
7	音階と調⑦（旋律の調性判断の方法①）	旋律の調性判断について調べておく	授業後にその復習
8	音階と調⑧（旋律の調性判断の方法②）	調性判断の方法について調べておく	授業後にその復習
9	音階と調⑨（旋律の調性判断における練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習
10	音階と調⑩（移調の方法）	移調について調べておく	授業後にその復習
11	音階と調⑪（移調の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習
12	和音①（和音の種類）	和音の種類について調べておく	授業後にその復習
13	和音②（和音の転回等）	和音の転回について調べておく	授業後にその復習
14	総復習（前期および後期で学修したことの復習）	今までやってきたことをまとめる	総復習で得たことを基に復習
15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習

教科書・テキスト等	楽典（音楽家を志す人のための）（音楽之友社），パーフェクト楽典 ハンドブック（ドレミ楽譜）
参考書・参考資料等	パーフェクト楽典・問題集（ドレミ楽譜）

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	主に授業態度、積極的な姿勢等
課題／小テスト	10%	課題への取り組み、姿勢
期末試験	60%	筆記試験の点数・内容の理解度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T57 音楽理論ⅡB	西林　博子	単独	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修	必修		選択必修	ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること。

授業の概要

Bクラスは楽典を基礎から学びたい人や、ある程度知識があるが、より基礎から学びなおしたい人のためのクラスである。習熟度テストを導入し、理解力を確かめながら、楽典をより理論的に学んでいく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	音楽理論Ⅰの復習	音名、音程、音階、楽語を復習しておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
2	和音①（和音の種類）	和音の種類について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
3	和音②（音階上の和音と転回、コードネームについて）	音階上の和音を弾いて確認しておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
4	移調①	移調について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
5	移調②（移調楽器）	移調楽器について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
6	調の判定①（旋律の調性判断の方法）	調の判定についてテキストで調べておく。	授業後に課題プリントを行い提出する。
7	調の判定②（調の判定と移調について）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
8	調の判定③(調性判断、移調の練習問題)	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
9	調の判定④(転調を含む調性判断、移調の練習問題)	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
10	小節と拍子とrhythm（強起・弱起・拍子の種類・syncopation他）	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
11	音型と反復とその略記法、演奏順について（メロディー的音型・ハーモニー的音程の反復と略記法等）	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
12	様々な音階（教会旋法、全音階、半音階および民族的音階）	音階の種類について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。
13	総復習（前期および後期で学修したことの復習）	これまでの学修をまとめる	授業後に課題プリントを行い提出する。
14	総復習（前期および後期で学修したことの復習）	これまでの学修をまとめる	授業後に課題プリントを行い提出する。
15	まとめ（総まとめ）	これまでの学修をまとめる	音楽理論Ⅰ、Ⅱのまとめ

教科書・テキスト等	楽典（理論と実習）（音楽之友社），プリント
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	10%	主に授業態度。積極的な姿勢等
課題提出	30%	事前学習後の定着度
期末テスト	60%	筆記試験での点数

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M3C58 音楽史Ⅰ（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む）	木村　博子	単独	２単位	音楽学科 ２年次	前期	選択	必修			ＡＢＣＥ

授業のテーマ及び到達目標

音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることができる。

授業の概要

西洋音楽史、日本音楽史、諸民族の音楽について取り上げる。
西洋音楽史については、時代や文化についての理解も深めながら、バロック時代までの音楽的特徴を理解していく。日本音楽史については、安土・桃山時代までの特徴、代表的なジャンルついて理解する。さらに諸民族の音楽については全体を俯瞰した後、アジアの音楽について理解する。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進行させていく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス：なぜ音楽史を学ぶか～人間と音楽	自分と音楽の関係を振り返る。	教科書の第１部序章をまとめる。
2	西洋音楽史（古代ギリシア） 古代ギリシアにおける音楽の考え方を通して、西洋音楽に通底する特質について考える。	教科書の第１部第１章を読む。	ギリシア人にとって音楽とは何だったのかまとめる。
3	西洋音楽史（中世） キリスト教と音楽の関係、ポリフォニーの発展について理解する。	グレゴリオ聖歌とオルガヌムを聴く。	教科書の第１部第２章をまとめる。
4	西洋音楽史（ルネサンス） フランドル楽派の音楽とイタリア・ルネサンス音楽について理解する。	イタリア・ルネサンス文化について調べる。	教科書の第１部第３章と第４章をまとめる。
5	西洋音楽史（バロック①） オペラの創始と発展を理解する。	モンテヴェルディの『オルフェオ』を視聴する。	教科書の第１部第５章をまとめる。
6	西洋音楽史（バロック②） バロックの器楽の発展について学ぶ。	バロックの楽器の種類について調べる。	教科書の第６章前半（pp.61～65）をまとめる。
7	西洋音楽史（バロック③） バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの音楽について学ぶ。	教科書の第６章後半（pp.65～68）を読む。	バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの作風をまとめる。
8	日本音楽史（導入：日本文化と音楽） 日本文化の諸相を検討し、それと音楽との関係を考える。	「日本」とは何か考える。	日本固有の音の感性についてまとめる。
9	日本音楽史（古代～平安時代） 古代から平安時代までの音楽の種類と歴史を理解する。	古代から平安時代までの文化を調べる。	教科書第2部第1章をまとめる。
10	日本音楽史（戦国・安土桃山時代） 能楽について学ぶ。	能『道成寺』を視聴する。	教科書第2部第2章をまとめる。
11	諸民族の音楽（概要） 世界の民族音楽を大陸別に概説する。	世界の地域と気候を予習する。	世界の音楽の概要をまとめる。
12	諸民族の音楽（アジアの音楽①） 東アジアと東南アジアの音楽について学ぶ。	東アジア、東南アジアの文化について調べる。	同地域の音楽を視聴する。
13	諸民族の音楽（アジアの音楽②） 中央アジアと西アジアの音楽について学ぶ。	アラビア半島の歴史について調べる。	同地域の音楽を視聴する。
14	まとめ①（西洋音楽と諸民族の音楽との関係） 18世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える。	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える。	西洋音楽における民族音楽の影響をまとめる
15	まとめ② １～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする。	これまでの内容をレポートにまとめる。

教科書・テキスト等	『決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』（音楽之友社）
参考書・参考資料等	『はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで』（音楽之友社），『日本音楽との出会い-日本音楽の歴史と理論』（東京堂出版），『音楽史を学ぶ～古代ギリシヤから現代まで』（教育芸術社）

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点(授業への取組)	30%	積極的な発言や質問、意欲
課題・レポート	70%	内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M3C59 音楽史Ⅱ（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む）	木村　博子	単独	２単位	音楽学科 ２年次	後期	選択	選択			ＡＢＣＥ

授業のテーマ及び到達目標

音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることができる。

授業の概要

この科目は、前期の「音楽史1」の続編として、西洋音楽史、日本音楽史、諸民族の音楽について取り上げるものである。西洋音楽史については、時代や文化についての理解も深めながら、古典派から20世紀までの音楽的特徴を理解していく。日本音楽史については、江戸時代から20世紀までの特徴、代表的なジャンルついて理解する。さらに諸民族の音楽については、アフリカおよび南北アメリカの音楽について理解する。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進行させていく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	西洋音楽史（導入：近代市民社会と音楽） 前古典派の活動と古典派の特質を理解する。	前期の復習をする。	教科書の第１部第７章をまとめる。
2	西洋音楽史（古典派①） ハイドン、モーツァルトの生涯と音楽について学ぶ。	教科書の第１部第8章を読む。	ハイドンとモーツァルトについてまとめる。
3	西洋音楽史（古典派②） ベートーヴェンの生涯と音楽について学ぶ。	ベートーヴェンの交響曲第３、５、９番を聴く。	教科書の第１部第８章をまとめる。
4	西洋音楽史（ロマン主義前期） 19世紀の時代背景とロマン主義の音楽の特質、シューベルト、メンデルスゾーンの音楽について学ぶ。	シューベルトとメンデルスゾーンの曲を聴く。	教科書の第１部第9章（ショパンを除く）をまとめる。
5	西洋音楽史（ロマン主義の諸相①） 19世紀のピアノ音楽について学ぶ。	ショパンとリストの曲を聴く。	ショパンとリストについてまとめる。
6	西洋音楽史（ロマン主義の諸相②） 後期ロマン主義の音楽について学ぶ。	ヴァグナーの楽劇論について調べる。	教科書の第１部第10章をまとめる。
7	西洋音楽史（20世紀の音楽①） 調性の崩壊と12音音楽について理解する。	19世紀末～10世紀前半の時代背景を調べる。	教科書の第１部第11章をまとめる。
8	西洋音楽史（20世紀の音楽②） 第2次世界大戦後の音楽について学ぶ。	トータル・セリーと偶然性の音楽について調べる。	教科書の第１部第12章をまとめる。
9	日本音楽史（江戸時代） 歌舞伎と文楽について学ぶ。	歌舞伎『勧進帳』、文楽『平家女護島』を視聴する。	教科書第2部第3章をまとめる。
10	日本音楽史（近代） 明治以降の音楽について学ぶ。	明治以降の日本史を調べる。	教科書第2部第4章をまとめる。
11	日本音楽史（現代） 第2次大戦以降の音楽について学ぶ。	武満徹の音楽を聴く。	教科書第３部第1章、第2章をまとめる。
12	諸民族の音楽（アフリカの音楽） アフリカの音楽とジャズについて学ぶ。	アフリカの歴史について調べる。	ジャズの歴史をまとめる。
13	諸民族の音楽（南アメリカの音楽） 南アメリカの音楽について学ぶ。	南アメリカの歴史について調べる。	同地域の音楽を視聴する。
14	まとめ①（西洋音楽と諸民族の音楽との関係） 20世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える。	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える。	現代の音楽における民族音楽の影響について考える。」
15	まとめ② １～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする。	これまでの内容をレポートにまとめる。

教科書・テキスト等	『決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』（音楽之友社）
参考書・参考資料等	『はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで』（音楽之友社），『日本音楽との出会い-日本音楽の歴史と理論』（東京堂出版），『音楽史を学ぶ～古代ギリシヤから現代まで』（教育芸術社）

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点(授業への取組)	30%	積極的な発言や質問、意欲
課題・レポート	70%	内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ソルフェージュＩＡ	隈部　文	単独	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修	選択必修		選択必修	ＢＤ

授業のテーマ及び到達目標

音楽の３要素を豊かに感じ、楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り音楽的に演奏できる力をつける。聴音、視唱、リズム、読譜を中心に、音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力を持つ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。

授業の概要

音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために聴音（単旋律・複旋律・和音・リズム）、視唱（単旋律・二声）、リズム（単純拍子・複合拍子）、読譜（高音部譜表・低音部譜表・大譜表・アルト譜表）を中心に様々な形態で学修する。身体を通して音楽を感じ取り、身体を動かしながら課題に取り組んでいく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	学修内容の説明と導入	シラバスを確認する	課題の復習
2	・単旋律聴音（記憶）・リズム・視唱（ハ長調） ・読譜（高音部譜表①）	ハ長調の音階を確認し歌っておく	課題復習・カデンツトレーニング
3	・単旋律聴音（筆記）・リズム・視唱（ヘ長調） ・読譜（高音部譜表②）	ヘ長調の音階を確認し歌っておく	課題復習・カデンツトレーニング
4	・複旋律聴音・リズム・視唱（ト長調） ・読譜（低音部譜表①）	ト長調の音階を確認し歌っておく	課題復習・カデンツトレーニング
5	・和声聴音・リズム・視唱（ニ長調） ・読譜（低音部譜表②）	ニ長調の音階を確認し歌っておく	課題復習・カデンツトレーニング
6	・リズム聴音・リズム・視唱（変ロ長調） ・読譜（低音部譜表③）	変ロ長調の音階を確認し歌っておく	課題復習・カデンツトレーニング
7	１～６までの確認（確認テスト）	これまでの課題の復習	課題復習・カデンツトレーニング
8	・音源を用いた名曲の聴音① ・リズム・視唱（イ長調）・読譜（大譜表①）	イ長調の音階を確認し歌っておく	課題復習・カデンツトレーニング
9	・音源を用いた名曲の聴音② ・リズム・視唱（変ホ長調）・読譜（大譜表②）	変ホ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
10	・音源を用いた名曲の聴音③・リズム ・視唱（ホ長調）・読譜（アルト譜表①）	ホ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
11	・聴音・リズム・視唱（変イ長調） ・読譜（アルト譜表②）	変イ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
12	・聴音・リズム・視唱（重唱①） ・読譜（アルト譜表③）	これまでの課題の復習	課題の復習
13	・聴音・リズム・視唱（重唱②） ・読譜	これまでの課題の復習	課題の復習
14	総合演習	これまでの課題の復習	課題の復習
15	まとめ	試験課題への取り組み	筆記試験、実技試験課題の復習

教科書・テキスト等	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
定期試験	60%	実技（リズム打ち・視唱・弾き歌い）、筆記（聴
平常点	40%	態度、積極的な取り組み、発表

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C19 ソルフェージュＩB	西林　博子	単独	２単位	音楽学科 １年次	前期	必修	選択必修		選択必修	ＡＢ

授業のテーマ及び到達目標

音楽の3要素（リズム・メロディー・ハーモニー）を豊かに感じ、聴く、読む、表現する、創る力を習得し、音楽基礎力を高めることを目標とする。。

授業の概要

音楽の基礎的なソルフェージュ能力・記譜能力を育成するために、聴音（単旋律、リズム）、視唱（単旋律）、リズム（単純拍子、複合拍子）をさまざまな形態で経験する。音楽理論の学修内容をより音楽的に理解できるようにする。コードネーム、カデンツを学修し、ハーモニーとメロディーの関係を感じ、表現できる基礎を身につける。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション／学修内容の説明。課題の目標と取り組み方について。テキスト・配布資料の確認	シラバスの熟読	課題の復習
2	視唱（単旋律①）／リズム（１声・単純拍子①）／聴唱／記譜について	P8、P24、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）
3	視唱（単旋律②）／リズム（１声・単純拍子②）／聴音／音階（長調）	P8、P24、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）
4	視唱（単旋律③）／リズム（１声・単純拍子③）／聴音／コードネーム	P8、P25、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）
5	視唱（Cdur①）／リズム（１声・単純拍子④）／聴音／主要３和音	P8、P26、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）
6	視唱（Cdur②）／リズム（１声・複合拍子①）／聴音／カデンツ（Ｉ-V-Ｉ）C:	P9、P27、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
7	視唱（Cdur③）／リズム（１声・複合拍子②）／聴唱／カデンツ（Ｉ-V-Ｉ）F:	P9、P28、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
8	視唱（Fdur①）／リズム（１声・複合拍子③）／聴音／カデンツ（Ｉ-V-Ｉ）G:	P9、P31、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
9	視唱（Fdur②）／（１声・複合拍子④）／聴音／カデンツ（Ｉ-V-Ｉ）D:	P9、P32、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
10	視唱（Fdur③）／リズム（２声①）／聴音／カデンツ（Ｉ-IV-V-Ｉ）・弾き歌い（長調）①	P14、P33、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
11	視唱（Gdur①）／リズム（２声②）／聴音／カデンツ（Ｉ-IV-V-Ｉ）・弾き歌い（長調）②	テキストP.18の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
12	視唱（Gdur②）／リズム（２声③）／聴音／カデンツ（Ｉ-IV-V-Ｉ）・弾き歌い（長調）③	テキストP.19、65～の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
13	視唱（Gdur③）／リズム（２声②）／聴音／カデンツ（Ｉ-IV-V-Ｉ）・弾き歌い（長調）④	テキストP.20～21、65～の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
14	視唱（長調のまとめ）／リズム（様々なリズム・アンサンブル）／聴音／カデンツ（Ｉ-IV-V-Ｉ）・弾き歌い（長調）⑤	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み
15	ソルフェージュＩのまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ・筆記試験実技試験課題の復習
	備考		

教科書・テキスト等	新・ソルフェージュ(教育芸術社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
定期試験	60%	実技（視唱・弾き歌い）、筆記（聴音）
平常点	40%	積極的な取り組み、課題提出

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ソルフェージュⅡA	隈部　文	単独	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修	選択必修		選択必修	ＡＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

音楽の３要素を豊かに感じ、楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り音楽的に演奏できる力をつける。聴音、視唱、リズム、読譜を中心に、音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力を持つ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。前期より更に幅広い内容と難しい課題に取り組む。

授業の概要

音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために聴音（単旋律・複旋律・和音・リズム）、視唱（単旋律・多声）、リズム（単純拍子・複合拍子）、読譜（大譜表・アルト譜表）を中心に様々な形態で学修する。基礎訓練に加えフォルマシオン・ミュジカルにも取り組み、ソルフェージュを多角的に学んでいく。クラスの状況に応じて内容を変更することもある。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	・学修内容の説明 ・ソルフェージュⅠの復習	シラバスを確認しておく	課題の復習
2	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱（様々な調、イ短調） ・移動ド唱法（ヘ長調）	イ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
3	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱（様々な調、ニ短調） ・移動ド唱法	聴音・視唱課題作成 ニ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
4	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱（様々な調、ホ短調） ・移動ド唱法	ホ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
5	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱（様々な調、ロ短調） ・移動ド唱法	ロ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
6	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱（様々な調、ト短調） ・移動ド唱法	ト短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
7	１～６までの確認（確認テスト）	これまでの復習をしておく	確認テストの復習
8	・様々な楽器による聴音①　・視唱 ・移動ド唱法（ト長調） ・フォルマシオン　ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
9	・様々な楽器による聴音②　・視唱 ・移動ド唱法 ・フォルマシオン　ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
10	・様々な楽器による聴音③　・視唱 ・移動ド唱法 ・フォルマシオン　ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
11	・聴音・視唱・移動ド唱法 ・フォルマシオン　ミュジカルを考える	課題曲の学習内容について考えてくる	課題の復習
12	・聴音・リズム　アンサンブル ・視唱（重唱①）・移動ド唱法	これまでの課題の復習をしておく	課題の復習
13	・聴音・リズム　アンサンブル ・視唱（重唱②）・移動ド唱法	これまでの課題の復習をしておく	課題の復習
14	総合演習	試験課題の確認	課題の復習
15	まとめ	試験課題への取り組み	実技試験、筆記試験課題の復習

教科書・テキスト等	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介していく

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
定期試験	70%	実技（リズム打ち・視唱・弾き歌い）、筆記（聴
平常点	30%	態度、積極的な取り組み、発表

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C20 ソルフェージュⅡB	西林　博子	単独	２単位	音楽学科 １年次	後期	必修	選択必修		選択必修	ＢＤ

授業のテーマ及び到達目標

音楽の3要素（リズム・メロディー・ハーモニー）を豊かに感じ、聴く、読む、表現する、創る力を習得し、音楽基礎力を高めることを目標とする。

授業の概要

音楽の基礎的なソルフェージュ能力・記譜能力を育成するために、聴音（単旋律、リズム）、視唱（単旋律）、リズム（単純拍子、複合拍子）をさまざまな形態で経験する。音楽理論の学修内容をより音楽的に理解できるようにする。コードネーム、カデンツを学修し、ハーモニーとメロディーの関係を感じ、表現できる基礎を身につける。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ソルフェージュⅠの内容理解の確認	ソルフェージュⅠの復習	課題の復習
2	視唱（amoll①）／リズム（１声）／聴音／短調の音階	P10、P29、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）
3	視唱（amoll②）／リズム（１声・混合拍子①）／聴音／カデンツ（a:Ⅰ-Ⅴ-Ⅰ）	P11、P30、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
4	視唱（dmoll①）／リズム（１声・混合拍子②）／聴音／カデンツ（d:Ⅰ-Ⅴ-Ⅰ）	P11、P34、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
5	視唱（dmoll②）／リズム（2声①）／聴音／カデンツ（d:Ⅰ-Ⅴ-Ⅰ）	P14、P35、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
6	視唱（emoll①）／リズム（２声②）／聴音／カデンツ（e:Ⅰ-Ⅴ-Ⅰ）	P15、P39、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
7	視唱（emoll②）／リズム（アンサンブル①）／聴唱／カデンツ（e:Ⅰ-Ⅴ-Ⅰ）	P18、P40、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
8	視唱（Bdur）／リズム（アンサンブル②）／聴音／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）・弾き歌い（短調）①	P19、P42、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
9	視唱（gmoll）／リズム（アンサンブル③）／聴音／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）・弾き歌い（短調）②	P20、P44、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
10	視唱（Ddur）／リズム（歌唱と拍手①）／聴音／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）・弾き歌い（短調）③	P46、P80、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
11	視唱（hmoll）／リズム（歌唱と拍手②）／聴音／カデンツ（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）・弾き歌い（短調）④	P48、P80、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
12	視唱（複合拍子）／リズム（歌唱と拍手②）／聴音／弾き歌い（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）長調・短調	P50,52、P80、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
13	視唱（まとめ）／リズム（歌唱と拍手④）／聴音／弾き歌い（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）長調・短調	P81、プリント課題の練習	復習と課題の提出（teams）カデンツトレーニング
14	視唱（まとめ）／リズム（まとめ）／聴音／弾き歌い（Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅰ）長調・短調	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み
15	ソルフェージュⅡのまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ・筆記試験実技試験課題の復習
備考			

教科書・テキスト等	新・ソルフェージュ(教育芸術社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
定期試験（実技）	30%	リズム奏・視唱・弾き歌い
定期試験（筆記）	30%	聴音
平常点	40%	積極的な取り組み、課題提出

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MA1M4N23 アートマネージメントⅠ	小西　たくま	単独	２単位	音楽学科 ２年次	前期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

アートマネージメント活動に対する認識を深め、自らコンサート等を企画立案し、上演を可能にすること。また、それらについての検証が行えるようにする。

授業の概要

コンサートを含むイベントの企画立案、実施を可能にするノウハウを習得する。公演の上演に至る過程で必要な課題や役割を学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	アートマネージメントの概要を識る	シラバスに目を通す	テキストによる確認作業	9	劇場・ホールを選ぶ	同上	同上
2	プロデューサーの役割と業務①	テキストに目を通す	同上	10	舞台の機構を識る①	同上	同上
3	プロデューサーの役割と業務②	同上	同上	11	舞台の機構を識る②	同上	同上
4	企画書を作成する①	同上	同上	12	舞台における音響を識る	同上	同上
5	企画書を作成する②	同上	同上	13	舞台における照明映像を識る	同上	同上
6	スタッフの組織づくり	同上	同上	14	舞台美術を識る	同上	同上
7	制作スタッフの役割と業務	同上	同上	15	前期講義の総括とリポートの作成	同上	同上
8	劇場・ホールを識る	同上	同上				

備考
※サウンドデザインコース必修／ミュージックパフォーマンスコース必修

教科書・テキスト等	KONISHI NOTE
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
課題・レポート	50%	前期講義内容の習得力。応用力。
平常点	50%	疑問点への取組。受講態度。課題への取組。

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4N24 アートマネージメントⅡ	小西　たくま	単独	２単位	音楽学科 ２年次	後期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

前期からの継続(後編) アートマネージメント活動に対する認識を深め、自らコンサートなどを企画立案し、上演すること。また、それらについての検証がおこなえるようにする。

授業の概要

前期からの継続(後編) コンサートを含むイベントの企画立案、実施を可能にするノウハウを習得する。公演の上演に至る過程で必要な課題や役割を学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	予算書を作成する①	シラバスに目を通す	テキストによる確認作業	9	舞台芸術と法律(著作権等)	同上	同上
2	予算書を作成する②	同上	同上	10	司会者の役割と業務	同上	同上
3	スケジュールを作成する①	同上	同上	11	フロントスタッフの役割と業務	同上	同上
4	スケジュールを作成する②	同上	同上	12	決算書の作成	同上	同上
5	舞台監督の役割と業務①	同上	同上	13	上演終了後の検証	同上	同上
6	舞台監督の役割と業務②	同上	同上	14	全体総括	同上	同上
7	音楽監督の役割と業務	同上	同上	15	リポートの作成	同上	同上
8	演出家の役割と業務	同上	同上				

備考
※サウンドデザインコース必修
※ミュージックパフォーマンスコース必修

教科書・テキスト等	KONISHI NOTE
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
課題・レポート	50%	講義内容の習得力。応用力。
平常点	50%	疑問点への取組。受講態度。課題への取組。

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4N27 メディアデザインⅠ	浅川　浩二	単独	２単位	音楽学科 ２年次	前期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

インターネットの台頭と共にその表現のメソッドが広がり、単純に演奏力だけでは、十分な訴求力をもった活動が難しい時代となりました。ネットメディアは全ての表現者にとって先ず基礎的知識として習得すべきものになったとも言え、これらの知識を体験を通じて習得することを目的とします。

授業の概要

インターネットを総合的表現媒体として捉え、セルフプロモート能力の向上を目指し、SNS、ウェブサイト、クラウド技術などを習得し、マルチメディア表現力の向上を図る。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ネットによるアーティストサイト閲覧	事例等確認
2	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ミュージシャンサイトの閲覧と要点の把握	ミュージシャンサイトの再確認
3	バーチャル・ミュージシャン 各自のコンセプトに基づいた仮想アーティスト	コンセプトの構成を練る	コンセプトの再確認と修正
4	ロゴマーク作成 グラフィックソフトによる制作	ミュージシャンのロゴなどの確認	グラフィックソフトの使い方の復習
5	バナー制作 グラフィックソフトによる制作	グラフィックソフトの利用法の確認	グラフィックソフトの使い方の復習
6	ブログ制作1 ブログ設置及び運用	ミュージシャンブログの閲覧	ブログの管理などの復習
7	ブログ制作2 ブログ設置及び運用	修正点などのアイデアの確認	ブログ内容の修正
8	Facebookプロモーション FBの仕組みと設置等	Facebookサイトの確認	設置サイトの確認と修正
9	Ｍｙ Space等SNSへの登録 Ｍｙ Space等音楽SNSの運用	Ｍｙ Spceの確認	設置サイトの確認と修正
10	音響特性について 音響上の特性等講義	ウェブ上で扱う音楽ファイルフォーマットについて	サウンドエディットソフトによる確認
11	オリジナルホームページ作成１ Wixを利用したオリジナルウェブの制作	Wixの仕様の確認	仕様の確認と修正
12	オリジナルホームページ作成２ Wixを利用したオリジナルウェブの制作	制作サイトの管理確認	サイト内容における確認と修正
13	ウェブパブリッシングの実情と実践１ ウェブプロモーションの実体講義	ネット上のプロモーション確認	実践後の確認
14	ウェブパブリッシングの実情と実践２ ウェブプロモーションの実体講義	ネット上のプロモーション確認2	実践後の修正
15	全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践

備考

※サウンドデザインコース必修

教科書・テキスト等	はじめてのビデオ編集 ： Windows7 &ムービー,メーカー対応版［単行本］	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
			課題/レポート	50%	制作レポート　ブログ及びロゴ等制作物
			平常点	30%	課題提出　出席率及び授業態度
参考書・参考資料等			期末試験	20%	制作物ｳｪﾌﾞ･ｻｲﾄ等最終制作物提出

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4N28 メディアデザインⅡ	浅川　浩二	単独	２単位	音楽学科 ２年次	後期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

現代のクリエイターにとって音楽と映像は切っても切れないコンテンツとなりつつある。
これは表現媒体の違いではあるが音楽家という枠を越えてクリエイターとしての表現力をつけるために必須のテーマとして捉えることが出来る。

授業の概要

サイバーリンクのPowerDirectorを利用し、動画制作の基礎から応用までを演習する。
映像はその特性から音、画像、動画など様々なメディアを駆使した総合芸術と捉えることが出来る反面、履修すべき課題は多い。このため各自の自主的演習の時間を作ることが必要となる。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	映像制作の基礎知識１ 映画等作品における監督の役割など	映画等作品鑑賞時コマ割りなどを意識する	映像におけるコンセプトなどの確認
2	映像制作の基礎知識２ プロモーションビデオなど制作過程	映像のコンセプトなどを意識して鑑賞	多種多様なプロモビデオの鑑賞
3	映像制作における撮影技術の基礎知識１ 映像用カメラの説明と使用	カメラの基礎的知識の予習	スマートホンでの撮影などへの応用
4	映像制作における撮影技術の基礎知識２ 撮影時レイアウトや露出などの講義	カメラの機能の予習	スマートホン等での実践実験
5	Youtube登録実験 ムービー登録作業	Youtubeアカウントの作成等	アカウントの確認
6	写真撮影の基礎と実践１ 写真の基礎的知識の講義	デジタルカメラの基礎的知識の予習	所有カメラでの実験等
7	写真撮影の基礎と実践２ 写真のフレーミングや露出関連講義	フレミングなどの予習	所有カメラでの実験等
8	写真加工の基礎と実践１ 写真と映像の加工についての講義	写真加工サイトのリサーチ	加工サイトにおける実験
9	写真加工の基礎と実践２ 写真加工実践	写真加工サイトのリサーチ及び登録	加工サイトにおける実験
10	動画撮影の基礎知識 動画撮影時における基礎知識	動画カメラについての予習	動画カメラの利用における要点の復習
11	動画撮影の実践１ 動画撮影	動画撮影の基礎知識の予習	所有カメラでの実験等
12	動画撮影の実践２ 動画撮影	ビデオカメラについての知識の修練	所有カメラでの実験等
13	動画編集１ 動画編集の基礎的演習	編集ソフトに関しての予習	所有ソフト等での実験
14	動画編集２ 動画編集	用語関連の予習	所有ソフト等での実験
15	まとめ 全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践

備考

※サウンドデザインコース必修

教科書・テキスト等	はじめてのビデオ編集 ： Windows7 &ムービー,メーカー対応版［単行本］	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
			課題/レポート	50%	制作レポート　ブログ及びロゴ等制作物
			平常点	30%	課題提出　出席率及び授業態度
参考書・参考資料等			期末試験	20%	制作物ｳｪﾌﾞ･ｻｲﾄ等最終制作物提出